

稲作管理情報（早生の収穫と中・晩生の管理）

高温が続き、生育が早くなるとともに胴割米の発生が懸念されます。
水管理と適期刈取りを徹底しましょう！

- ① **稲刈りまでの水管理**：出穂後 20 日間の湛水管理、その後収穫 5 ～ 7 日前までの間断かん水を徹底し、胴割米の発生を防ぎましょう。
- ② **適期刈取り**：事前に籾黄化率を確認して刈取時期を判断する。
コンバインの点検を済ませ、早めに刈取りを開始する。

てんたかくの収穫 ～刈取適期内に収穫を行いましょう！～

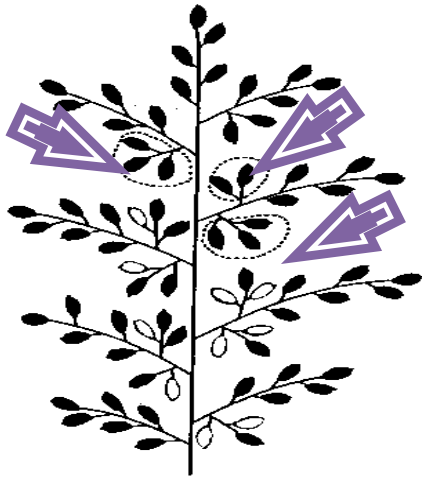
- 今年春からの高温で生育がかなり早くなっています。また、高温で登熟しており、胴割米の発生を防ぐため、適期内（籾黄化率 85～90%）に収穫を終えましょう。
- ほ場ごとに籾の黄化状況を必ず確認して下さい。
- 収穫時期は、地域の刈取標準田（立て札設置ほ場）を参考にしてください。
- 特に刈取期間の長い大規模経営体では、刈遅れを防ぐため、ほ場毎に籾黄化状況を見定めるとともに、籾黄化率 80%（成熟期の 1 ～ 2 日前）から収穫を開始しましょう。

点線内の籾が黄化した頃が
籾黄化率 85～90%

出 穂 期	刈取適期目安 (籾黄化率 85～90%)
7 月 10 日頃	8 月 14～17 日頃※

※平年より 2℃高く推移した場合の積算気温で算出

- 刈取りは穂の露が落ちてから行いましょう
（脱ぷ米・コンバインのつまり発生防止）。
- ヤケ米発生防止のため、収穫後 4 時間以内に乾燥機に入れ送風してください。



 コンバインなどの清掃・注油・始動点検を行い、安全な作業に努めましょう。
収穫前に雑草を抜き取り、雑草種子が混入しないように注意しましょう！

コシヒカリ・富富富・てんこもりの水管理

- 「出穂後 20 日間の湛水管理」と、「収穫の 5 ～ 7 日前までの間断かん水により、登熟期間の稲体活力維持に努めましょう。
- フェーンが予想される時は、事前に入水（浅水で可）しましょう。

夏の熱中症等声かけ期間 7 ～ 9 月
秋の農作業安全運動 8 月 20 日～10 月 20 日

1 適正な乾燥作業 ～籾水分に応じた作業で胴割米の発生防止～

(1) 高水分・低水分籾の乾燥作業の注意点 ※急激な乾燥は胴割米の発生につながります

張り込み時の籾水分を確認し、25%以上または20%未満の場合は、下表を参考に注意して作業しましょう。

張り込み時の籾水分	乾燥作業の注意点
25%以上	・籾水分ムラを少なくするため、2～3時間の通風乾燥後に、送風温度45℃以下で乾燥する。 ・籾水分17%程度で一度乾燥を止め、半日程度おいた後に再乾燥（二段乾燥）を実施する。
20%未満	・立毛中の胴割が懸念されるため、送風温度を機種標準温度より5℃低くする。

(2) 乾燥作業のポイント

○玄米水分は14.5～15.0%に仕上げましょう。

○乾燥速度は1時間あたりに減少する水分量が0.8%以下となるように、ゆっくりと行いましょう。

○高温時や張り込量が少ない場合は、送風温度を下げゆっくりと乾燥しましょう。

○青米の混入状況に応じて乾燥機を停止しましょう（下表参照）。

○籾水分が17%以下になったら必ず手動水分計でこまめに水分を確認しましょう。

表 乾燥機停止水分の目安

玄米100粒中の青米粒数	乾燥機停止時の玄米水分	乾燥機停止後の水分変化
5粒以下	15.0～15.5%	乾く（－0.5%）
6～10粒	14.5～15.0%	変化なし
11粒以上	14.0～14.5%	もどる（＋0.5%）



2 適正な調製作業 ～作業前の各機器の点検と作業の丁寧さが決め手！～

〈 籾すり・選別のポイント 〉

○使用前にVベルト、ゴムロールをチェックし、摩耗していたり、ヒビがあったりする場合は交換しましょう。

○籾すりは、乾燥後籾温度が常温に低下してから行いましょう。

○籾すり時、玄米に籾が混入しないようゴムロールの間隔をこまめに調整しましょう。

○網目は1.9mmを使用し、適正流量で屑米などを確実に除去しましょう。

○令和8年度 JA 高岡 「営農記録ノート」P36～41を参考にしてください。

○ご不明な点はJA 高岡 担当営農指導員 または 高岡農林振興センター高岡班(26-8477) までお尋ねください。